





















授業科目

会社設立実習Ⅲ

【担当教員名】※実務家教員= (○)		対象学年	3	対象学科	事業創造学科
福田 稔 (○)		開講時期	③・④	必修・選択	選択
		単位数	4	時間数	120
【概要】					
事業計画、資金計画、経営(仮想)、決算、税務申告までの一連の流れを学修した会社設立実習Ⅰ及び、学外での実際の会社設立を想定し、具体的な計画を策定した会社設立実習Ⅱの学習内容を踏まえて、会社設立実習Ⅱで策定した計画内容に基づき、実際に会社設立に必要な計画策定から実行までを実践的に学修する。					
【学習目標】					
1. 会社設立実習Ⅱの会社設設計画が実施可能か、経営者の資質・覚悟はあるかなど最終検証する。 2. 会社設設計画を学部内、大学内の経営会議に上程し、設立承認の意思決定を得る。 3. 株主・出資者等の意思決定、出資を受けて会社を設立する。					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1 (4コマ)	講義ガイダンス (会社設立との意義と経営者の覚悟)			1	実習
〃	NSGグループ池田代表講話、ディスカッション			1	実習
〃	会社設立実習Ⅱで策定した事業計画のタイムスケジュールと決意表明			1	実習
2 (4コマ)	経営チーム(プロジェクト)の最終編成(桃園の誓い)			1	実習
〃	プロジェクトメンバーの役割分担(人事)			1	実習
〃	「イノベーションの道具箱」開示と貢献内容の共有			1	実習
3 (4コマ)	ステークホルダーの明確化			2	実習
4 (4コマ)	収益モデル・費用・投資モデルの確立			2	実習
5 (4コマ)	事業成長戦略、KGI・KPIの明確化			2	実習
6 (4コマ)	資金調達計画の策定			2	実習
7 (4コマ)	事業計画書、目論見書等プレゼンテーション資料の作成①(データによる市場分析、競合他社、業界動向)			2	実習
8 (4コマ)	事業計画書、目論見書等プレゼンテーション資料の作成②(アンケートとインタビューによる市場調査)			2	実習
9 (4コマ)	事業計画書、目論見書等プレゼンテーション資料の作成③(収支計画)			2	実習
10 (4コマ)	事業計画書、目論見書等プレゼンテーション資料の作成④(経営戦略と事業戦略の検証)			2	実習
11 (4コマ)	事業計画書、目論見書等プレゼンテーション資料の作成⑤(全体まとめ)			2	実習
12 (4コマ)	関係機関へのプレゼンテーション、資金調達			3	実習
13 (4コマ)	会社設立手続きの実行			3	実習
14 (4コマ)	サービス体制の確立、運用			3	実習
15 (4コマ)	実習成果の振り返り、総評			1・2・3	実習
【使用図書】					
	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	指定しない、担当教員の作成資料等を用いる。				
参考書	『起業家は社会の宝だ』	福田稔	ガリバーBOOKS	2008	
その他の資料	必要に応じて参考資料を適宜配布する。				
準備学習(予習・復習等)	予習としてその前の授業で指定する範囲の資料などを事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。				
【評価方法】 実習日誌の評価80%、考課20%で総合評価		【履修上の留意点】 履修条件：ビジネスプランの基礎、ビジネスプランの応用、会社設立実習Ⅰ、会社設立実習Ⅱの単位を修得済みの者			

【担当教員名】※実務家教員= (○) 美甘 哲秀 (○)	対象学年	1	対象学科	事業創造学科
	開講時期	①・②	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30
【概要】 戦後、日本の産業は、円高、コスト高、通商摩擦、新興国の台頭などの逆風に晒されながらも、一定の競争力を維持しており、その背景には、海外投資、経営統合、生産工程の効率化、技術革新などの弛まぬ努力があったことについて概説する。繊維、鉄鋼、自動車、電機、流通などを事例に挙げながら、これまでの環境変化や自己変革のプロセスについて学修する。さらに、今後、デジタル社会に向かうなかで、各産業がどのような展望をもっているのかについても検討する。				
【学習目標】 1. 各業界団体が発表する統計や企業が公表する有価証券報告書の分析ができるようになる。 2. 特定の業界動向を専門に扱うメディアの情報を読みこなす力を身につける。 3. 日本の産業の方向性を自分なりに考えることができる。				
単元・回数	授業計画又は学習の主題		学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	マクロ的アプローチと産業的アプローチ		1・2・3	講義
2	日本の産業が直面した構造変化（円高、コスト高）		1	講義
3	日本の産業が直面した構造変化（通商摩擦、新興国の台頭）		1	講義
4	日本の産業の対応（海外投資、経営統合）		1	講義
5	日本の産業の対応（生産工程の効率化、技術革新）		1	講義
6	日本の産業の推移（繊維）		2	講義
7	日本の産業の推移（鉄鋼）		2	講義
8	日本の産業の推移（自動車）		2	講義
9	日本の産業の推移（電機）		2	講義
10	日本の産業の推移（流通）		2	講義
11	業界統計の読み方		2	講義
12	有価証券報告書の読み方(概要・読み方)		1・2	講義
13	有価証券報告書の読み方(活用)		1・2	講義
14	デジタル社会のなかの日本の産業		3	講義
15	まとめ(日本の産業の方向性を考える)		3	講義
【使用図書】				
	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	なし			
参考書	なし			
その他の資料	業界団体発表の統計 各社の有価証券報告書			
準備学習（予習・復習等）	予習としてその前の授業で指定する範囲の資料などを事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 理解度をチェックするための小テスト（50%）と期末評価試験（50%）を総合して評価する。		【履修上の留意点】 学生とコミュニケーションをとりながら、双方向での授業を行います。積極的に授業に参加し、自分の意見を披露する訓練を受けてください。		

【担当教員名】※実務家教員= (○) 美甘 哲秀 (○)		対象学年	1	対象学科	事業創造学科
		開講時期	③・④	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要】 企業が巨大化、グローバル化するにつれ、その影響力はますます大きなものとなっており、現代の企業は、「財とサービスの提供者」としての立場にとどまっていたり、企業価値の向上は望めないこと、経営への監視、法令の順守、環境への配慮など規律ある行動をとる必要があることを学修する。また、経営戦略の一環として、企業は統合・買収・再生などに取り組んでおり、これを支援するビジネスについても学修する。					
【学習目標】 1. 現代企業がどのように発展してきた経緯を理解する。 2. 現代企業が抱えている問題を自分なりに考えられるようにする。 3. 今後、どのような企業活動が望まれるかを考えることができる。					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	授業のガイダンス (授業の目的、全体像、進め方)			1・2・3	講義
2	企業会計の考え方 (フローとストック)			1	講義
3	キャッシュフローの動きで捉える企業経営			1	講義
4	投資と回収の考え方			1	講義
5	近江商人・財閥・企業グループ			1	講義
6	企業・経営者への監視体制			1	講義
7	企業の法令遵守			2	講義
8	企業の社会的責任と社会的課題への取り組み			2	講義
9	企業倫理と企業不祥事			2	講義
10	スチュワードシップ・コード (機関投資家のあり方)			2	講義
11	企業の統合と買収			2	講義
12	グローバル化における海外投資の意義			3	講義
13	企業破綻と企業再生			3	講義
14	企業価値の考え方			3	講義
15	デジタル社会における企業 (ベンチャービジネス)			3	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)		なし			
参考書		よく分かる企業論	佐久間信夫 編著	ミネルヴァ書房	2016年
その他の資料		なし			
準備学習 (予習・復習等)		予習としてその前の授業で指定する範囲の資料などを事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 理解度をチェックするための小テスト (50%) と期末評価試験 (50%) を総合して評価する。		【履修上の留意点】 学生とコミュニケーションをとりながら、双方向での授業を行います。積極的に授業に参加し、自分の意見を披露する訓練を受けてください。履修条件：現代産業論の単位を修得済みの者			

【担当教員名】※実務家教員= (○)		対象学年	2	対象学科	事業創造学科
渡邊 康英 (○)		開講時期	③・④	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要】 既修の課題解決手法のひとつであるデザイン・シンキング概論に関連する学修として、地方の課題を解決し、より魅力的な地域振興・地域活性化つなげていくためのプロセスについて、具体的な事例を基に考察し、基本的な着眼点や企画・構成等、どのように体系化されているのかについて学修する。また、今後、地域振興・地域活性化に向けた取り組みにおいて、課題となる社会問題に対する着眼点・解決プロセス等を理論的かつ実践的に理解する。					
【学習目標】 1. ソーシャルデザインの概念、意義を理解する。 2. 人口減少が進む地域社会の主要課題と、ソーシャルデザインが課題解決に向けた有効な手法であることを理解する。 3. ソーシャルデザインの着眼点、仕組み、特徴を理解する。					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ソーシャルデザインとは ・授業の全体構成、ソーシャルデザインの基本的な考え方や意義を説明			1	講義
2	地域社会の課題解決に向けたソーシャルデザイン ・人口減少に伴う地域社会が抱える課題とソーシャルデザインの必要性を説明			1・2	講義
3	都市部におけるソーシャルデザイン事例を理解するー1 ・中心市街地再生に関するソーシャルデザイン事例の説明			2・3	講義
4	都市部におけるソーシャルデザイン事例を理解するー2 ・高齢者・障害者・子育てに関するソーシャルデザイン事例の説明			2・3	講義
5	都市部におけるソーシャルデザイン事例を理解するー3 ・移動手段の確保に関するソーシャルデザイン事例の説明			2・3	講義・ミニワークショップ(演習)
6	中山間地域におけるソーシャルデザイン事例を理解するー1 ・移住・交流に関するソーシャルデザイン事例の説明			2・3	講義
7	中山間地域におけるソーシャルデザイン事例を理解するー2 ・買物弱者に関するソーシャルデザイン事例の説明			2・3	講義・ミニワークショップ(演習)
8	前半1回～7回までの講義のまとめ ・ソーシャルデザインの着眼点、特徴、仕組みを確認			1・2・3	講義・ミニワークショップ(演習)
9	ソーシャルデザインの取組経緯を理解するー1 ・地域住民による課題解決に向けた取組経緯と工夫を紹介			3	講義
10	ソーシャルデザインの取組経緯を理解するー2 ・社会起業家による課題解決に向けた取組経緯と工夫を紹介			3	講義
11	ソーシャルデザインの取組経緯を理解するー3 ・企業による課題解決に向けた取組経緯と工夫を紹介			3	講義
12	ソーシャルデザインを企画するー1 ・デザインシンキングによる空き店舗・廃校等の活用策の検討			1・2・3	グループワーク(演習)
13	ソーシャルデザインを企画するー2 ・デザインシンキングによる関係人口確保策の検討			1・2・3	グループワーク(演習)
14	ソーシャルデザインの企画案の発表 ・ソーシャルデザインの企画案について発表・意見交換			1・2・3	グループワーク・プレゼン(演習)
15	後半9回～14回までの講義のまとめとレポート課題の説明 ・課題解決に向けたソーシャルデザインの要点を確認			1・2・3	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)		なし			
参考書		なし			
その他の資料		必要に応じて参考資料を適宜配布する。			
準備学習(予習・復習等)		予習としてその前の授業で指定する範囲の資料などを事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 授業参加点(60%) グループワークレポート(20%) 最終レポート(20%)		【履修上の留意点】 履修条件: デザイン・シンキング概論の単位を修得済みの者			

【担当教員名】※実務家教員= (○)		対象学年	3	対象学科	事業創造学科
渡邊 康英 (○)		開講時期	①・②	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要】 ソーシャルデザインⅠの発展的な学修として、地域振興・地域活性化に向けた行政側の地域政策・計画を理解したうえで、ソーシャルデザインとしての行政と民間（住民、NPO、民間企業等）が連携して課題解決に取り組んだ事例を中心に、事業スキームと検討プロセスを学修する。また、これらの事例を通じ、地域政策の概念と意義や地域政策における政府や地方公共団体が担う役割の理解を踏まえ、地域の魅力を高めるための行政と民間の在り方や最新の動向について学修する。これらを踏まえ、次の学修となるソーシャルデザイン実習につながるよう、創造的な課題解決とその事業化の進め方を理解する。					
【学習目標】 1. 地方創生に関する行政の主要な計画、施策を理解する。 2. 地域社会が主体的に課題解決に取り組み始めた現状と、事業スキームの特徴について理解する。 3. ソーシャルデザインの事業化に向けた検討プロセスを理解する。					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	地方創生に向けた国や地方公共団体の取組を理解する－1 ・授業の全体構成を説明、地方創生に向けた行政の計画・施策を説明			1	講義
2	地方創生に向けた国や地方公共団体の取組を理解する－2 ・地方創生に向けた行政の計画・施策を説明			1	講義
3	地方創生に向けたソーシャルデザインの事業スキームを理解する－1 ・まちなか再生に向けたソーシャルデザイン事例の説明			2	講義
4	地方創生に向けたソーシャルデザインの事業スキームを理解する－2 ・移住定住促進に向けたソーシャルデザイン事例の説明			2	講義
5	地方創生に向けたソーシャルデザインの事業スキームを理解する－3 ・交流人口の確保に向けたソーシャルデザイン事例の説明			2	講義
6	地方創生に向けたソーシャルデザインの事業スキームを理解する－4 ・交通弱者支援に向けたソーシャルデザイン事例の説明			2	講義
7	地方創生に向けたソーシャルデザインの事業スキームを理解する－5 ・買物弱者支援に向けたソーシャルデザイン事例の説明			2	講義
8	前半1回～7回までの講義のまとめ ・地方創生の取組とソーシャルデザインにおける事業スキームの要点を確認			1・2	講義・ミニワークショップ(演習)
9	ソーシャルデザインの検討プロセスを理解する－1 ・現状分析から課題整理、コンセプト案の作成に至るプロセスを説明			3	講義
10	ソーシャルデザインの検討プロセスを理解する－2 ・コンセプト案作成から事業スキーム案の組立に至るプロセスを説明			3	講義
11	ソーシャルデザインの検討プロセスを理解する－3 ・事業スキーム案の実現に向けたプロセスを説明			3	講義
12	ソーシャルデザインの事業スキーム案を作成する－1 ・コンセプト案までの検討材料を提示し、事業スキーム案を検討			2・3	グループワーク(演習)
13	ソーシャルデザインの事業スキーム案を作成する－2 ・前回の事業スキーム案の弱点を検討し、改善案を作成			2・3	グループワーク(演習)
14	ソーシャルデザインの事業スキーム案の発表 ・ソーシャルデザインの事業スキーム案について発表・意見交換			2・3	グループワーク・プレゼン(演習)
15	後半9回～14回までの講義のまとめとレポート課題の説明 ・事業スキームと検討プロセスの要点を確認			2・3	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)		なし			
参考書		なし			
その他の資料		必要に応じて参考資料を適宜配布する。			
準備学習(予習・復習等)		予習としてその前の授業で指定する範囲の資料などを事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 授業参加点(60%) グループワークレポート(20%) 最終レポート(20%)		【履修上の留意点】 履修条件：デザインシンキング概論、ソーシャルデザインⅠの単位を修得済みの者			

授業科目

ソーシャルデザイン実習

【担当教員名】※実務家教員= (○)		対象学年	3	対象学科	事業創造学科
渡邊 康英 (○)		開講時期	③・④	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	60
【概要】					
<p>既修の課題解決手法のひとつであるデザイン・シンキング概論及びソーシャルデザインⅠ・Ⅱの理論を基に、地域社会が抱える実際のフィールドにあてはめて、課題解決のためのプラン策定実習を実施する。なお、実習の進め方としてはグループワーク、フィールドサーベイ、グループ討議、グループ発表を中心に進め、検討されたプランの中で教員・学生より高く支持された優秀なプランは、対象フィールドの団体、自治体等へのプレゼンテーションを実施する。</p>					
【学習目標】					
<p>1. 学校で展開される講義に限定されことなく、地域の日常全般に関わることを通じて、地域を取り巻く環境や課題を理解できる。                  2. 自身の早期キャリアデザインを支援する観点から、キャリア意識形成及び課題解決を実践することができる。</p>					
単元・回数	授業計画又は学習の主題	学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員		
1	ガイダンス：中山間地域の課題解決に向けた実習の進め方（前期）	1・2	（学内）		
2	中山間地域の課題検討①（グループ討議） ・実習フィールドの現状分析と課題検討	1	（学内）		
3	中山間地域の課題検討②（グループワーク） ・実習フィールドの課題の構造化と実習課題の検討	1	（学内）		
4	中山間地域の実習課題の設定（グループ発表）	1	（学内）		
5	フィールドワーク①（グループ討議、グループワーク） ・実習フィールドの現地調査	1	（学外）		
6	フィールドワーク②（グループワーク） ・実習フィールドにおけるヒアリング調査	1	（学外）		
7	課題解決策の検討①（グループ討議） ・既存の課題解決策に関する分析	1	（学内外）		
8	課題解決策の検討②（グループワーク） ・実習フィールドの課題確認と課題解決策の検討	1	（学内外）		
9	課題解決策の検討③（グループ討議） ・課題解決策に対する評価	1	（学内外）		
10	課題解決策の検討④（グループワーク） ・課題解決策の実施に向けた検討	1	（学内外）		
11	プレゼン資料の作成①（グループ討議） ・現状分析シートの作成	1	（学内）		
12	プレゼン資料の作成②（グループワーク） ・課題検討シートの作成	1	（学内）		
13	プレゼン資料の作成③（グループ討議） ・課題解決シートの作成	1	（学内）		
14	プレゼン資料の作成④（グループワーク） ・事業スキームシートの作成	1	（学内）		
15	中山間地域の課題解決策のプレゼンテーション（グループ発表）	1	（学内）		
16	まとめと振り返り	1	（学内）		
17	ガイダンス：まちなかの課題解決に向けた実習の進め方（後期）	1・2	（学内）		
18	まちなかの課題検討①（グループ討議） ・実習フィールドの現状分析と課題検討	1・2	（学内）		
19	まちなかの課題検討②（グループワーク） ・実習フィールドの課題の構造化と実習課題の検討	1・2	（学内）		
20	まちなかの実習課題の設定（グループ発表）	1・2	（学内）		
21	フィールドワーク①（グループ討議、グループワーク） ・実習フィールドの現地調査	1・2	（学内）		
22	フィールドワーク②（グループワーク） ・実習フィールドにおけるヒアリング調査	1・2	（学内）		
23	課題解決策の検討①（グループ討議） ・既存の課題解決策に関する分析	1・2	（学内外）		
24	課題解決策の検討②（グループワーク） ・実習フィールドの課題確認と課題解決策の検討	1・2	（学内外）		
25	課題解決策の検討③（グループ討議） ・課題解決策に対する評価と実施に向けた検討	1・2	（学内外）		
26	プレゼン資料の作成①（グループ討議） ・現状分析シート、課題検討シートの作成	1・2	（学内）		
27	プレゼン資料の作成②（グループワーク） ・課題解決シートの作成	1・2	（学内）		
28	プレゼン資料の作成③（グループワーク） ・事業スキームシートの作成	1・2	（学内）		
29	まちなかの課題解決策のプレゼンテーション（グループ発表）	1・2	（学内）		
30	まとめと振り返り	1・2	（学内）		
【使用図書】					
	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>	
教科書 （必ず購入する書籍）	なし				
参考書	なし				
その他の資料	必要に応じて参考資料を適宜配布する。				
準備学習（予習・復習等）	予習としてその前の授業で指定する範囲の資料などを事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。				
【評価方法】	【履修上の留意点】				
ワークショップ学習成果物（50%） フィールドワーク学習成果物（30%） まとめと振り返り（20%）	履修条件：デザイン・シンキング概論、ソーシャルデザインⅠ、ソーシャルデザインⅡの単位を修得済みの者				

授業科目

国際動態論

【担当教員名】※実務家教員= (○)		対象学年	3	対象学科	事業創造学科
増田 達夫 (○)		開講時期	④	必修・選択	選択
		単位数	2	時間数	30
【概要】 企業現場や経済社会でリーダーとなる人材に欠かせない、高度で幅広い教養の一環として、世界規模で物事をとらえる視野と感性を身に付けさせることを目的とする。具体的には、大規模な国際交渉の展開、主要な国際機関の機能、世界経済フォーラム(ダボス会議)の役割、有力な多国籍企業の戦略、石油資源をめぐるパワーゲームなどを、実際の出来事や最新のニュースを素材とした演習・議論を通じ、自ら考えつつ学修する。					
【学習目標】 1. 世界の大きな動き及びその中心となるプレーヤーとはどのようなものか、ピクピクチャーを理解する。 2. 次に、これまでの出来事や最新のニュースを素材に、これらプレーヤーの動きや戦略を学ぶ。 3. 仕上げとして、生徒自身がプレーヤーになって、シナリオに基づき演習を行い、理解を深める。 4. 全ての講義・討議を英語で行うことで、将来、世界の出来事を直接英語で理解できるようになる切っ掛け作りを目指す。					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション(目的、シラバスの流れ、講義の進め方など)			1・2・3・4	講義
2	世界の大きな動き及びプレーヤーについてのピクピクチャー			1・2・4	講義
3	地球環境問題をめぐるプレーヤーの動き			2・4	講義
4	気候変動対策をめぐる国際交渉の表と裏			2・4	講義
5	化石エネルギーをめぐるプレーヤーの動き			2・4	講義
6	新エネルギーをめぐるプレーヤーの動き			2・4	講義
7	自動車革命をめぐるプレーヤーの動き			2・4	講義
8	情報ビジネスをめぐるプレーヤーの動き			2・4	講義
9	金融ビジネスをめぐるプレーヤーの動き			2・4	講義
10	国際連合をはじめとする国際機関の機能と動き			2・4	講義
11	世界経済フォーラム等の機能と動き			2・4	講義
12	演習(最新のニュースを素材として①)			3・4	演習
13	演習(最新のニュースを素材として②)			3・4	演習
14	全体討議及びまとめ①(グループワーク)			1・2・4	演習
15	全体討議及びまとめ②(発表)			1・2・4	演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)		なし			
参考書		The Global Risks Report	The World Economic Forum	The World Economic Forum	毎年1月、無料(HP)
その他の資料		独自で収集・作成した教材を使用。			
準備学習(予習・復習等)		予習としてその前の授業で指定する範囲の資料や教科書を事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 クラス討議への貢献(40%) 中間レポート(20%) 期末試験(40%)		【履修上の留意点】 世界の動きを、常に好奇心をもってフォローすること。 講義用資料を、毎回2時間は必ず予習し、講義に臨むこと。 議論の技術を身に付けるためにも、クラス討議に積極的に貢献すること。 履修条件: 現代産業論の単位を修得済みの者			



授業科目

現代史と国際関係論

【担当教員名】※実務家教員= (○) 増田 達夫 (○)	対象学年	1	対象学科	事業創造学科
	開講時期	③・④	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30
【概要】 現在の世界の国際関係は、様々な歴史的事実や出来事が複雑に入り組みながら、成立していることについて理解する。具体的には、現状の国際関係及び、これからの国際関係を理解する上で重要となる第一次産業革命以降の産業界の歴史、第二次世界大戦後の戦争と地域紛争及び、国際連合との関わり、帝国主義と植民地政策、冷戦とその終結、ユダヤ教・イスラム教・キリスト教の成り立ち、テロと民族問題、EUの理想と課題、米中二大大国、中東とエネルギー、日中問題、日韓問題、尖閣諸島と北方領土等のテーマ別に、学修する。				
【学習目標】 1. 産業革命以降の世界的な歴史の基本的事項を正しく理解する。 2. 世界的な歴史の中で果たしてきた国際連盟・国際連合の役割を正しく理解する。 3. 世界的な歴史と日本の関わりの変遷を正しく理解する。 4. 現代史の変遷を踏まえ、現在の日本が抱える国際的な課題を正しく理解する。				
単元・回数	授業計画又は学習の主題		学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	産業革命と日本		1, 3	講義
2	帝国主義と植民地政策		2, 3	講義
3	世界大戦の変遷		2, 3	講義
4	国際連合の役割		2, 3	講義
5	第二次世界大戦後の戦争と地域紛争		2, 3	講義
6	冷戦とその終結		2, 3	講義
7	ユダヤ教、イスラム教、キリスト教、仏教の成り立ちと課題		3, 4	講義
8	テロと民族問題		3, 4	講義
9	EUの理想と課題		3, 4	講義
10	米中二大大国の課題		3, 4	講義
11	中東とエネルギー問題		3, 4	講義
12	日中問題		3, 4	講義
13	日韓問題		3, 4	講義
14	領土問題（尖閣諸島と北方領土）		3, 4	講義
15	まとめ（日本が抱える国際的な課題について）		3, 4	講義
【使用図書】				
教科書 (必ず購入する書籍)	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
参考書	The Global Risks Report	The World Economic Forum	The World Economic Forum	毎年1月、無料(HP)
その他の資料	独自で収集・作成した教材を使用。			
準備学習（予習・復習等）	予習としてその前の授業で指定する範囲の資料や教科書を事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 クラス討議への貢献（40%） 中間レポート（20%） 期末試験（40%）		【履修上の留意点】 世界の動きを、常に好奇心をもってフォローすること。 講義用資料を、毎回2時間は必ず予習し、講義に臨むこと。 議論の技術を身に着けるためにも、クラス討議に積極的に貢献すること。 履修条件：現代産業論の単位を修得済みの者		

授業科目

ビジネスプランの基礎

【担当教員名】※実務家教員= (○) 古屋 光俊 (○)	対象学年	1	対象学科	事業創造学科
	開講時期	③・④	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30
【概要】 ビジネスプランが新しい事業の成功確率を高めてくれる最大の武器になること、また、ビジネスプランを作成することは、自分の進める事業の理解を深めることになり、社内外の関係者の理解と協力を集める上での強力なツールにもなることについて理解するとともに、事業化するために必要となる事業分野の選定やビジネスモデルの構築、ビジネスプランの作成およびプレゼンテーションに関する基本的な知識について学修する。				
【学習目標】 1.ベンチャービジネスにおけるビジネスプランの重要性、役割について理解する。 2.ビジネスプランのフレームワーク、構成要素について理解する。 3.ビジネスプランの作成における基本的会計原則、法則について身に着けエクセルを使って作成する。 4.グループに分かれて自ら起業したい事業分野、ビジネスモデルを構想し、社会における役割を考える。 5.グループワークを通じて、グループで考えた事業のビジネスプランを議論する。 6.グループで議論した内容をエクセルによる事業計画とパワーポイントで整理し発表する。				
単元・回数	授業計画又は学習の主題		学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ベンチャービジネスとビジネスプラン		1・2	企業、ベンチャーキャピタル
2	ビジネスプランのフレームワークと事業計画		1・2	事業創造の記述
3	成功するベンチャービジネス戦略		1・2	参入戦略
4	ビジネスモデルと需要予測		1・2	収入、コスト、価格
5	事業計画作成における会計ルール① 収支、キャッシュ		3	会計ルール PL、CF
6	事業計画作成における会計ルール② 貸借、キャッシュ		3	会計ルール BS、CF
7	事業計画作成①		3	会計ルール PL、BS、CF
8	事業計画作成②		3	会計ルール PL、BS、CF
9	グループワーク：社会のニーズを考え事業を構想する		4・5	社会的価値、創造性
10	グループワーク：収入構造、コスト構造を考える		4・5	お金の流れ
11	グループワーク：事業計画を作ってみる		4・5	エクセル
12	グループワーク：事業計画全体の整合性を考える		4・5	エクセル
13	グループワーク：発表ストーリーを考え、原稿を作る		4・5	パワーポイント
14	グループワーク：プレゼンテーション準備		4・5	パワーポイント
15	ビジネスプラン発表		6	プレゼンテーション
【使用図書】				
	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	なし			
参考書	なし			
その他の資料	必要に応じて参考資料を適宜配布する。			
準備学習 (予習・復習等)	予習としてその前の授業で指定する範囲の資料などを事前に読み、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 成績は「出席・講義参加状況 (40%)」「中間レポート (30%)」「発表 (30%)」によって評価する。	【履修上の留意点】 自ら事業を考えたら、ビジネスプランを書いて、人に説明することの重要性を理解する。ビジネスプランの基本構成を理解し、魅力的なビジネスプランを作成する能力を身に着ける。前半は講義形式で知識の習得に主眼を置き、後半はグループワークによる演習形式とする。知識の理解度、グループでの構想力、プレゼン能力が試される。			

授業科目

ビジネスプランの応用

【担当教員名】※実務家教員= (○)		対象学年	2	対象学科	事業創造学科
古屋 光俊 (○)		開講時期	①・②	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	60
【概要】					
<p>ビジネスプランの基礎を踏まえて、技術・製品・サービスに関するアイデア、新しいビジネスに挑戦するための方法、手段、手順等、事業コンセプト、事業環境の分析、マーケティング方法など、経営者・起業家として必要となる基本的スキルや発想法とビジネスプランをより具体的なアイデアに発展させる事業計画策定の方法について、学生の興味・関心によりグループ分けしたチーム毎に、グループワーク、リサーチ、レポート、プレゼンテーション等を用いた実習を通じて学修する。</p>					
【学習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスプランの基礎で学習した知識の完全な習得、使える知識（ビジネスツール）として体系的に整理する。</li> <li>2. グループワークを通じて、グループ議論の進め方、意見のまとめ方、ファシリテーション、リーダーシップについて学ぶ。</li> <li>3. 自分の興味から湧き出るビジネスアイデアを、論理的に整理し、差別化されたサービス・製品を考える方法を理解する。</li> <li>4. 考えたサービス・製品の潜在的な顧客の仮説→検証（インタビュー）→仮説修正→検証（アンケート）の手順を実践する。</li> <li>5. 検証されたサービス・製品のビジネスプラン（戦略、展開計画等）を作成し、実行可能なプラン作成のスキルを習得する。</li> <li>6. 自分たちの考えたビジネスプランをまとめ、投資家を引き付ける効果的なプレゼンテーションの能力を身に着ける。</li> </ol>					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1(2コマ)	ビジネスプランの基礎から応用への発展の理解、グループ編成。			1	4人×10グループの編成。
2(2コマ)	自分が興味がある分野でビジネスアイデアを考える。			2・3	ロジカルツリー
3(2コマ)	世の中になく差別化されたサービス・製品を考える。			2・3	差別化戦略
4(2コマ)	販売の方法、ビジネスモデルを考える。			2・3	ビジネスモデル
5(2コマ)	潜在顧客のプロファイル（ペルソナ）を考え、仮説を作る。			2・3・4	ユーザー仮説
6(2コマ)	市場データから潜在需要（TAM）を推計する。			2・3・4	インターネットリサーチ
7(2コマ)	顧客ニーズをインタビューで検証する。（質問準備）			2・3・4	インタビュー内容
8(2コマ)	顧客ニーズをインタビューで検証する。（実施と分析）			2・3・4	潜在ニーズの発掘
9(2コマ)	顧客ニーズをアンケート調査で検証する。（調査準備）			2・3・4	アンケート質問票
10(2コマ)	顧客ニーズをアンケート調査で検証する。（実施と分析）			2・3・4	製品の再設計
11(2コマ)	TAMとアンケート調査結果から売上展開計画を予測する。			2・4・5	販売計画
12(2コマ)	製品の製造方法と原価、人材の採用計画を考える。			2・4・5	バリューチェーン
13(2コマ)	ビジネススタートに必要な資金計画と調達方法を考える。			2・5	ベンチャーファイナンス
14(2コマ)	ビジネスプラン（戦略、収支、資金、展開計画）の形に整理する。			2・5	エクセルシート
15(2コマ)	ビジネスプランの発表ストーリーを考え、発表形式でまとめ、聴衆に効果的に発表する。			2・5・6	発表のストーリー、プレゼンテーション
【使用図書】					
	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	なし				
参考書	ガゼル企業成長の法則	東出浩教（編著）	中央経済社	2018年 2,592円	
その他の資料	必要に応じて参考資料を適宜配布する。				
準備学習（予習・復習等）	予習としてその前の授業で指定する範囲の資料などを事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。				
【評価方法】		【履修上の留意点】			
成績は「出席・講義参加状況（40%）」「発表（40%）」「レポート提出（20%）」によって評価する。		<p>ビジネスプランは、数字の羅列ではなく、起業家の思いの結晶である。「これだ。」という強い思いを少人数のグループワークを通じて、現実的な計画に作り上げていく。仮説と検証を繰り返し、グループで一つの方向にまとめていく力を養う。最後にグループ発表を行い、講義終了後にはグループワークによる自らの学びをレポートで提出する。履修条件：ビジネスプラン基礎の単位を修得済みの者</p>			

授業科目

実践ベンチャービジネス

【担当教員名】※実務家教員= (○) 古屋 光俊 (○)	対象学年	2	対象学科	事業創造学科
	開講時期	③・④	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

**【概要】**  
1年次に履修したアントレプレナーシップ論を基礎に、ベンチャービジネスを立ち上げ、成功させるためには、起業家（アントレプレナー）は、どのように企業経営を実践すべきかを取り扱う。アントレプレナーが一人で、或いは数名で開始した当初から、10名、数十名、100名、数百名の規模に発展させるために、企業規模、企業ステージごとの経営の変化の在り方(企業形態と経営)を考察し、これらを踏まえて起業家にとって重要となるベンチャー・ビジネスの基礎的事項・知識について学修する。様々な起業の事例研究・考察を通じて、実践的なベンチャー企業の立ち上げ及び経営手法、新事業成功の戦略や立ち上げの成功のために必要となる手法を修得する。

**【学習目標】**  
1. 「アントレプレナーシップ論」での学習内容を具体的なベンチャー企業立ち上げの視点で再確認する。  
2. 「ベンチャービジネス（スタートアップ）とは何か」を理論的に理解し、自分がベンチャーを起業するイメージを持つ。  
3. 「日本で成功するベンチャービジネスの立ち上げ方法と成長方法」を科学的に理解する。  
4. 起業後の事業成長、会社規模の成長とともに、経営上の違い、組織の違いを理解し、起業家として注意すべきポイントを習得する。

単元・回数	授業計画又は学習の主題	学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	アントレプレナーシップ論の再確認	1	アントレプレナー
2	創業メンバーと創業資金を集めてベンチャー企業を起業する	2	創業メンバー、制度的支援
3	ベンチャー企業の立ち上げと成長過程	3、4	成長段階で乗り越える壁
4	資本政策とベンチャーキャピタルからの資金調達	3、4	ベンチャーキャピタル、融資
5	マーケティング戦略とリーンスタートアップ	3、4	参入戦略、仮説検証
6	ビジネスモデルとビジネスプランを練る	3、4	モデルフレームワーク
7	成長資金を調達する、大企業と提携する	3、4	パートナーシップ
8	まとめ(起業家としての今後について)	1~4	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	なし			
参考書	ガゼル企業成長の法則	東出浩教 (編著)	中央経済社	2018年
その他の資料	必要に応じて参考資料を適宜配布する。			

準備学習（予習・復習等）  
予習としてその前の授業で指定する範囲の資料などを事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。

<b>【評価方法】</b> 成績は「講義への積極性 (40%)」「中間レポート (30%)」「最終試験 (30%)」によって評価する。出席状況が悪い場合は減点とする。	<b>【履修上の留意点】</b> ベンチャービジネスには、夢と志が必要である。一方で、夢と志だけでは成功できない。日々のリスクに当事者として向き合い、解決しなければならない。そもそもどのように立ち上げればいいのか、どのように成長させればいいのか、その問いに科学的に答え、方法論を提示する。2回のテストで知識の定着度を確認する。履修条件：アントレプレナーシップ論の単位を修得済みの者
--	---

授業科目

地域産業研究Ⅲ（環境）

【担当教員名】※実務家教員＝（○） 櫻井繁樹、増田達夫（○）	対象学年	2	対象学科	事業創造学科
	開講時期	③・④	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30
【概要】 環境・エネルギーに関する知識を習得させ、エネルギー産業の現状と課題について理解させるとともに、再生可能エネルギー分野における新たな事業を創造するための能力と態度を育てる。再生可能エネルギーの活用促進に関する具体的な事例の考察を通して、将来のエネルギー選択の幅の拡大について理解するとともに、新潟県が多様な地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入や当該分野への参入のためのアイデアの考案や方策について考える。				
【学習目標】 1. 環境問題の概要と国内、国外で進められてきた取り組みについて学修する。 2. 環境問題が地域に及ぼすインパクトにつき考える。 3. 上記1.2を踏まえて、地域産業との繋がりについて考える。				
単元・回数	授業計画又は学習の主題		学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション（目的、シラバスの流れ、講義の進め方など）		1・2・3	講義
2	環境問題の概要と世界の取り組み		1	講義
3	エネルギー問題の概要と世界の取組み		1	講義
4	環境問題とエネルギーの相互関係		1	講義
5	環境・エネルギー問題をめぐる日本の取組み		1	講義
6	化学物質・廃棄物対策の課題		1	講義
7	森林破壊・砂漠化・生物多様性危機		1	講義
8	環境関連技術の役割		1	講義
9	地域環境・まちづくりへのインパクト		2	講義・演習
10	地域産業へのインパクト		2	講義・演習
11	行政政策へのインパクト		2	講義・演習
12	事例研究（日本の事例から）		1・2・3	演習
13	事例研究（世界の事例から）		1・2・3	演習
14	全体討議：環境の未来と地域産業①（グループワーク）		1・2・3	演習
15	全体討議：環境の未来と地域産業②（発表）		1・2・3	演習
【使用図書】				
	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 （必ず購入する書籍）	なし			
参考書	なし	佐久間信夫 編著	ミネルヴァ書房	2016年
その他の資料	独自で収集・作成した教材を使用。			
準備学習（予習・復習等）	予習としてその前の授業で指定する範囲の資料を事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 クラス討議への貢献（40%） 中間レポート（20%） 期末試験（40%）		【履修上の留意点】 関連する動きを、常に好奇心をもってフォローすること。 講義用資料を、毎回2時間は必ず予習し、講義に臨むこと。 議論の技術を身に着けるためにも、クラス討議に積極的に貢献すること。 履修条件：地域経済産業論の単位を修得済みの者		

授業科目

会社設立実習 I

【担当教員名】※実務家教員＝(○) 原岡和生(○)、福田稔(○)	対象学年	2	対象学科	事業創造学科
	開講時期	③・④	必修・選択	必修
	単位数	4	時間数	120
【概要】 経営資源である、ヒト、モノ、カネ、情報を動かし、管理し、各組織が連携して機能しないと会社として成り立たないことについて理解するとともに、学生同士や担当教員とのディスカッションを繰り返しながら、実際にビジネスプランを策定し、模擬会社を設立することを通して、事業計画、資金計画、経営(仮想)、決算、税務申告までの一連の流れについて学修する。				
【学習目標】 1. ビジネスプランを実践的に検証する。 2. 模擬会社の仕組みを設計する。 3. 模擬会社の運営計画、諸手続きをシミュレーションする。				
単元・回数	授業計画又は学習の主題	学習目標 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員	
1(4コマ)	講義ガイダンス (会社を設立してビジネスをすること)	1		
"	「ビジネスプランの応用」で作成したオリジナルのビジネスプラン、事業計画の発表・共有	1		
2(4コマ)	事業化するビジネスプランの分野、特性、課題克服の方法等によりチームづくり	2		
"	チームを核とするワークショップ形式により、事業化課題ごとの知識の定着・実装化(アクティブラーニング)	2		
3(4コマ)	事業のCSF(Critical Success Factor)策定	3	重要成功要因の抽出、選定	
"	経営戦略、経営目標、行動指針への落とし込み	3		
4(4コマ)	事業に必要な経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報他)の棚卸しと調達	3		
"	商品・サービスの明確化	3		
5(4コマ)	模擬会社設立に向けた準備①	3		
"	事業の全体像(経営理念、事業の内容、ターゲット、顧客ニーズ)	3		
"	事業の分析(新規性・独自性、市場規模と特性、競合状況と優位性、マーケットポジション、リスク分析)	3		
6(4コマ)	模擬会社設立に向けた準備②	3		
"	事業展開(商品開発計画、製造・調達計画、販売計画、中期戦略)	3		
"	財務(収支計画、資金計画、財務分析)	3		
7(4コマ)	模擬会社の事業計画プレゼンテーション	3		
8(4コマ)	模擬会社プロフィールの策定(社名・事業概要・代表・組織等について模擬取締役会実施にて決定)	3		
9(4コマ)	模擬会社の運営シミュレーション①模擬会社(A・Bグループ)、顧客・取引先(C・Dグループ)	3	模擬会社へ課題の提示→対応→意見交換	
10(4コマ)	模擬会社の運営シミュレーション②模擬会社(C・Dグループ)、顧客・取引先(A・Bグループ)	3	模擬会社へ課題の提示→対応→意見交換	
11(4コマ)	模擬会社の運営シミュレーション③模擬会社(A・Bグループ)、顧客・取引先(C・Dグループ)	3	模擬会社へ課題の提示→対応→意見交換	
12(4コマ)	模擬会社の運営シミュレーション④模擬会社(C・Dグループ)、顧客・取引先(A・Bグループ)	3	模擬会社へ課題の提示→対応→意見交換	
13(4コマ)	模擬会社の決算シミュレーション①	3		
14(4コマ)	模擬会社の決算シミュレーション②	3		
15(4コマ)	実習成果の振り返り、総評	1・2・3		
【使用図書】				
	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	指定しない、担当教員の作成資料等を用いる。			
参考書	『起業家は社会の宝だ』	福田稔	ガリバーBOOKS	2008 [ISBN]9784861070372
その他の資料	なし			
準備学習(予習・復習等)	予習としてその前の授業で指定する範囲の資料などを事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 実習日誌の評価80%、考課20%で総合評価	【履修上の留意点】 特になし			

授業科目

会社設立実習Ⅱ

【担当教員名】※実務家教員＝(○)		対象学年	3	対象学科	事業創造学科
原岡和生(○)、福田稔(○)		開講時期	①・②	必修・選択	必修
		単位数	4	時間数	120
【概要】					
<p>会社設立実習Ⅰで学修した事業計画、資金計画、経営(仮想)、決算、税務申告までの一連の流れの理解を踏まえ、学外での実際の会社設立を想定した具体的な計画を策定する。具体的には、学部全体で企業参加メンバーやスタッフを募って起業チームを形成し、会社運営上の経営資源の過不足の検証や補完、調達計画を策定する。また、模擬会社を実際の会社にした際の課題の抽出から、運営計画、設立起案書、株主総会資料等を作成する。</p>					
【学習目標】					
<p>1. 会社設立実習Ⅰで設立した模擬会社のチームを再編成する。                  2. 会社運営上の経営資源の過不足を検証、保管・調達計画を作成する。                  3. 編成したチームで模擬会社を実際の会社にする上での課題、運営計画、設立起案書、株主募集資料を作成する。</p>					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1(4コマ)	講義ガイダンス (存在価値のある会社を設立すること)			1	
#	会社設立実習Ⅰで策定したビジネスプラン、事業計画の発表・共有			1	
#	事業内容、商品・サービス特性によるチームづくり(再編成)			1	
2(4コマ)	チームメンバー個々の「イノベーションの工具箱」設計・棚卸し			2	
#	専門(得意)分野、特技 リーダーシップ、アントレプレナーシップ			2	
#	デザイン思考、システム思考 オープンイノベーション環境の構築			2	
3(4コマ)	チームメンバーの役割、目標の明確化(業務分担)			3	
4(4コマ)	会社設立に向けた準備① 事業の全体像(経営理念、事業の内容、ターゲット、顧客ニーズ)事業の分析(新規性・独自性、市場規模と特性、競合状況と優位性、マーケットポジション、リスク分析)			3	
5(4コマ)	会社設立に向けた準備② 事業展開(商品開発計画、製造・調達計画、販売計画、中期戦略)財務(収支計画、資金計画、財務分析)			3	
6(4コマ)	会社設立に向けた準備③ 経営理念の明確化			3	
7(4コマ)	会社設立に向けた準備④ 商品・サービスの明確化(試作)			3	
8(4コマ)	会社設立に向けた準備⑤ 広報・PR戦略の明確化			3	
9(4コマ)	会社設立に向けた準備⑥ 資金調達計画、KGI・KPIの策定			3	
10(4コマ)	会社設立に向けた準備⑦ 運営計画の策定、株主募集計画の策定			3	
11(4コマ)	会社設立に向けた準備⑧ 定款の作成			3	
12(4コマ)	会社設立に向けた準備⑨ 発起人決議書、発起人会議事録、代表取締役設定書、取締役就任承諾書、監査役就任承諾書、印鑑届書等			3	
13(4コマ)	税務申告手続き準備 法人届、青色申告の承認申請書、給与支払事務所等の開設届出書、源泉徴収の納期の特例の承認に関する承認書			3	
14(4コマ)	その他の手続準備 自治体、社会保険、労働基準監督署等			3	
15(4コマ)	実習成果の振り返り、総評			1・2・3	
【使用図書】					
	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	指定しない。担当教員の作成資料等を用いる。				
参考書	『起業家は社会の宝だ』	福田稔	ガリバーBOOKS	2008 [ISBN]9784861070372	
その他の資料	なし				
準備学習(予習・復習等)	予習としてその前の授業で指定する範囲の資料などを事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。				
【評価方法】 実習日誌の評価80%、考課20%で総合評価		【履修上の留意点】 履修条件：会社設立実習Ⅰの単位を修得済みの者			

授業科目

ICT活用ビジネス

【担当教員名】※実務家教員＝（○） 向正道（○）、原岡和生（○）	対象学年	3	対象学科	事業創造学科
	開講時期	③・④	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30
【概要】 ICT技術の目覚ましい進歩があらゆる産業、企業に大きな構造変化をもたらす中、それを活用した独自のビジネスモデルを構築した企業の多くは高収益を実現していることについて解説する。そのうえで、今後ますますの拡大が予想されるICT技術の活用によるビジネスの可能性を考察すると共に、ビジネス化可能な産業、ビジネス化するための視点、ビジネス化までのプロセス・手法等の概略を学修する。				
【学習目標】 1. ICTの技術をいかにビジネス化するかについて、講義事例を学ぶ。 2. 商品開発ならびにその提案書、企画書を書く基礎を身につけることができる。				
単元・回数	授業計画又は学習の主題		学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ガイダンス		1・2	講義
2	ICTの恩恵を考えてみよう（もし、スマホが無かったら？）		1	演習
3	ICTビジネス事例研究①（ビジネスモデルの共通語BMCを知ろう）		1	演習
4	ICTビジネス事例研究②（先人の知恵を学ぶ）		1・2	演習
5	ICTビジネス事例研究③（「今」のNeedsを知るために）		1	演習
6	何が自社の強みか？（特許情報にみる技術とビジネス）		1	演習
7	どんなアプリが欲しい？（ビジネス提案の前に）		1	演習
8	提案書・企画書の書き方①（どんな内容を書けばよい？）		2	演習
9	提案書・企画書の書き方②（他人の書いたものを）		2	演習
10	ICTビジネスプレゼン事例（企画書は他人の共有する為にある）		2	演習
11	ICTビジネス企画策定演習①（まずは書いてみよう）		2	演習
12	ICTビジネス企画策定演習②（他人の書いたものを添削してみる）		2	演習
13	ICTビジネス企画策定演習③（ブラッシュアップ）		2	演習
14	改めてICTの未来を考えてみる（アイデアは無限にある?!）		1	演習
15	まとめ		1・2	演習
【使用図書】				
	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	なし			
参考書	『〈インターネット〉の次に来るもの 未来を決める12の法則』 『ビジネスモデル・ジェネレーション ワークショップ』	K.ケリー著（服部桂訳） 今津美樹	NHK出版 翔泳社	2016年 2014年
その他の資料	必要に応じて参考資料を適宜配布する。			
準備学習（予習・復習等）	予習としてその前の授業で指定する範囲の資料などを事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】 ・中間レポート 30% ・期末試験 70%	【履修上の留意点】 ・総合点数60点で合格です。 ・課題が多いので、心して受講してください。 ・皆さんの提出したレポートや発表資料は、次年度以降の教材等に使用される場合があります。 ・講義の順番は、時事ネタの都合で変更になる可能性があります。 履修条件：アントレプレナーシップ論、実践ベンチャービジネスの単位を修得済みの者			



授業科目

企業内実習 I

【担当教員名】※実務家教員＝（○） 西村伸也、石川秀才、松澤孝紀、福田稔 （○）、渡邊康英（○）		対象学年	1	対象学科	事業創造学科
		開講時期	③・④	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	60
【概要】 ビジネス現場における他者との相互理解や円滑に仕事を進めるうえで信頼関係を築くことの重要性について、実際の企業現場で業務を体験することで理解し、企業活動における報告・連絡・相談の必要性や社会人としての身だしなみ・マナーについてもその能力と態度を身に付ける。実習先企業の事業内容が地域社会に果たす役割や企業人としての責任の自覚や他者と協調・協働して行動することの大切さを理解し、企業活動について考察する態度を身に付ける。					
【学習目標】 1. 臨地実務実習先の企業における各部署、部門の仕事、業務内容、役割を正しく理解し組織全体の構造、仕組みを理解する。 2. 企業活動において必要となるビジネスマナー及び社会人としてのマナーを理解し、実践する。 3. 日常業務におけるコミュニケーションにおいて、聞き手にわかりやすく、また、重要となるポイントを明確かつ正確に伝えるためにわかりやすい表現とは何かを理解する。 4. 価値観の異なる他者と協働し、互いに貢献し合いながらチームとして成果を生み出すことの意義を理解し、実践できる。					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
第1週	企業概要の説明（企業沿革、事業内容、社会的意義等）（企業説明）			1	
↳	臨地実務実習に取り組むことで何を修得すべきかという目的と姿勢の明確化			1	
↳	業務現場の見学およびヒアリング（気づいたことのまとめ）			1・2・3	
↳	実習先部署でのワークフロー、作業動線の説明と確認			1・2・3	
第2週	社内コミュニケーションの観察と実践①ビジネスマナー、挨拶、電話、メール			1・2・3	
第3週	社内コミュニケーションの観察と実践②会議、ミーティング、報告・連絡・相談			1・2・3	
第4週	顧客対応の観察と実践①敬語・言葉使い、身だしなみ、表情・態度			1・2・3	
第5週	顧客対応の観察と実践②話の聞き方、来客・電話対応			1・2・3	
第6週	顧客対応の観察と実践③ビジネス文章・メール作成、コンプライアンス			1・2・3	
第7週	実習成果（自己の課題の抽出）のまとめ、報告書作成			1・2・3	
第8週	従業員へ報告書のプレゼンテーションとフィードバック			1・2・3	
↳	まとめ、振り返り（修得したこと、改善すべきことの抽出）			4	
【使用図書】					
教科書 （必ず購入する書籍）	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>	
参考書	なし				
その他の資料	実習先企業より提示される資料を確認のこと。				
準備学習（予習・復習等）	予習としてその前の実習先企業が指定する資料などを事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。				
【評価方法】 実習先からの評価40%（臨地実務実習の手引きに基づく）、実習日誌の評価30%、事後課題（プレゼンテーション等）30%で総合評価		【履修上の留意点】 ●受入企業をはじめ様々な関係者の協力のもと実施しているプログラムであり、企業での実習は社会人としてのマナーや個別の受入企業ごとの約束事を遵守し、その企業の業務（課題解決）に貢献する姿勢で臨むこと。 ●受講途中での履修放棄は認めない。受講前にスケジュールをよく確認し、教員と相談のうえで受講すること。 ●受講にあたっては、傷害保険及び第三者損害賠償責任保険への加入、企業と実習の条件を確認するための書類記入（未成年者は保護者の署名）が必要となる。 ●この実習科目を履修するための要件となる科目として、「情報リテラシー」「日本語コミュニケーション」「ビジネスモラル」全ての科目の単位を修得していることを要件とする。			

【担当教員名】※実務家教員＝(○)		対象学年	3	対象学科	事業創造学科
櫻井繁樹、石川秀才、渡邊康英(○)、平田沙織、土岐智賀子		開講時期	③・④	必修・選択	必修
		単位数	6	時間数	180
【概要】 実習先企業の事業内容、社会的役割を理解し、業務現場の見学やヒアリング、実際の業務体験を通して自社の事業状況、自社の強みや弱みを把握し、業界事情の分析、市場の分析、競合他社の分析、社会環境の分析を踏まえて、実習先企業の抱える課題を認識し、課題の解決のための方策を考察する。この際、課題抽出のため、ここまでに学んだ経営戦略や経営組織の理解、トップマネジメントの理解、会計・財務に関する理論を総合的に活用し、課題解決策を企画提案書としてまとめ、実習先企業へのプレゼンテーションを体験することで、地域産業の振興や活性化を推進するための創造的な能力と実践的な態度を身に付ける。					
【学習目標】 1. 臨地実務実習先の企業における各部署、部門の仕事、業務内容、役割を正しく理解し組織全体の構造、仕組みを理解する。 2. 臨地実務実習先の企業の概要及び市場における企業価値やポジショニングを理解する。 3. ここまでに学んだ経営管理、マーケティング、会計理論を活用することで、企業活動における課題を抽出し、課題解決に向けた道筋や方策を理解する。 4. 価値観の異なる他者と協働し、互いに貢献し合いながらチームとして成果を生み出すことの意義を理解し、実践できる。 5. 実習等の中で直面する課題や自分にとって困難な状況に向き合い、やりきることを経験する。 6. 企業内コミュニケーションにおいて、重要となる効果的なプレゼンテーションを実践できる。					
	授業計画又は学習の主題	学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員		
第1週	企業概要の説明（企業沿革、事業内容、社会的意義等）（企業説明）	1			
↳	競合他社等業界事情、業界を取り巻く環境や課題説明（企業説明）	1・2			
↳	学修テーマの理解（企業説明）※課題の提示	1・2			
↳	業務現場の見学およびヒアリング（気づいたことのみ）	1・2・3			
↳	目標の設定、行動計画、スケジュールの作成	1・2・3			
第2週	企業分析（商品性、市場性、収益性、事業構造等）（個人作業）(1)	1・2・3			
第3週	企業分析（経営全般、財務・会計、人材、営業等）（個人作業）(2)	1・2・3			
第4週	企業分析（グループワーク）	1・2・3			
第5週	各部署ミーティング及びブレインストーミング、レポート作成(1)（営業・開発担当）	1・2・3			
第6週	各部署ミーティング及びブレインストーミング、レポート作成(2)（財務・会計、総務担当）	1・2・3			
第7週	経営上層部ミーティング及び企業経営課題を踏まえたブレインストーミング(1)（商品性、市場性、収益性、事業構造等に関連するまとめ）	1・2・3			
第8週	経営上層部ミーティング及び企業経営課題を踏まえたブレインストーミング(2)（経営全般、財務・会計、人材、営業等に関連するまとめ）	1・2・3			
第9週	課題解決策の抽出（グループワーク）	1・2・3・4			
第10週	提案書作成（わかりやすさ、制作ポイントの明確化）	1・2・3			
第11週	提案書作成（課題に対する方策、項目・順序立て）	1・2・3			
第12週	グループ毎に企画書の取りまとめ 提案書の中間報告（企業側主幹者への説明や意見抽出） 業務現場の再見学および再ヒアリング（修正ポイントの明確化）	4・5・6			
第13週	提案書修正・改善、提案書のプレゼンテーション準備や予行演習	4・5・6			
第14週	従業員へ提案書のプレゼンテーション	4・5・6			
第15週	提案書に対するフィードバック、振り返り	5・6			
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>	
教科書 （必ず購入する書籍）	なし				
参考書	なし				
その他の資料	実習先企業より提示される資料を確認のこと。				
準備学習（予習・復習等）	予習としてその前の実習先企業が指定する資料などを事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。				
【評価方法】 実習先からの評価40%（臨地実務実習の手引きに基づく）、実習日誌の評価30%、事後課題（プレゼンテーション等）30%で総合評価	【履修上の留意点】 ●受入企業をはじめ様々な関係者の協力のもと実施しているプログラムであり、企業での実習は社会人としてのマナーや個別の受入企業ごとの約束事を遵守し、その企業の業務（課題解決）に貢献する姿勢で臨むこと。 ●受講途中での履修放棄は認めない。受講前にスケジュールをよく確認し、教員と相談のうえで受講すること。 ●受講にあたっては、傷害保険及び第三者損害賠償責任保険への加入、企業と実習の条件を確認するための書類記入（未成年者は保護者の署名）が必要となる。 ●この臨地実務実習科目を履修するには、原則として、実習科目に関連する「企業内実習Ⅰ・Ⅱ」「経営学の基礎」「経済学の基礎」「経営戦略論」「経営組織論」「ビジネスモデル論」「マーケティング」「デジタルマーケティング」「会計学」「財務諸表論」「簿記概論」全ての科目の単位を修得していることを要件とする。				

授業科目

事業計画策定総合実習

【担当教員名】※実務家教員＝（○） 西村伸也、徳田賢二、平田沙織、星和樹、松澤孝紀、高松孝光（○）、向正道（○）、原岡和生（○）、福田稔（○）、美甘哲秀（○）		対象学年	4	対象学科	事業創造学科
		開講時期	①・②・③・④	必修・選択	必修
		単位数	4	時間数	120
【概要】 新規事業開発の専門職業人として、実践的かつ応用的な能力を総合的に高めるために、職業専門科目を中心に身に付けた知識・技能を統合した解決力・創造力を身に付けるための総合的な実習を実施する。具体的には、事業開発についての調査や分析を行い、その結果を基に、地域産業の振興のための具体的な事業計画の考案から実現方策の立案までを実践的に学修する。また、指導教員との議論や学生同士の討議、共同作業等を通して、コミュニケーション能力やディベート力、プレゼンテーション能力の向上を図る。					
【学習目標】 1. 新規事業開発について計画的に準備を進めることができる。 2. 分かりやすい発表ができる。 3. 指摘された問題点を修正し計画に反映させることができる。 4. 新規事業を開発し計画にまとめ発表できる。					
単元・回数	授業計画又は学習の主題	学習目標			
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員		
第1週	ガイダンス	1			
↳	新規事業開発計画①	1			
↳	新規事業開発計画②	1			
↳	新規事業開発計画③	1			
↳	新規事業開発計画④	1			
↳	中間発表に向けての論点整理①	2			
↳	中間発表に向けての論点整理②	2			
第15週	中間発表	2	発表		
↳	計画の見直し①	3			
↳	計画の見直し②	3			
↳	計画の見直し③	3			
↳	計画の見直し④	3			
↳	最終確認①	4			
↳	最終確認②	4			
第30週	新規事業計画発表	4	発表		
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)		なし			
参考書		なし			
その他の資料		必要に応じて参考資料を適宜配布する。			
【評価方法】 中間発表25% 最終発表25% 事業計画内容50%		【履修上の留意点】 特になし			